差し替え資料 【資料 2 】関係

【まちづくりの基本方向】 2-10 Society5.0 の実現に向けた技術の活用

【計画目標】

- ①市民サービス向上を図るため、AI を活用したサービスを提供します。
- ②オープンデータ、地理空間情報施策を推進します。

市が保有する統計的な情報や電子地図情報の提供サービスを推進します。

【現状と課題】

国は、Society 5.0 で実現する社会として、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出そうとしています。また、A I を活用することで必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車等の技術で、少子高齢化、地方の過疎化などの課題が克服され、社会の変革(イノベーション)を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会をめざすとしています。

本市においても、事務の効率化や市民サービス向上の観点から、IoTの有効活用を進めて、あらゆる世代にとって安全で使いやすいサービスを提供することが求められています。

【主な取組】

①AI を活用したサービスの提供

数値目標	AI チャットボットへの年間問い合わせ件数	
	現状値(H30)	目標値(R6)
	_	1,000 件

②オープンデータ、地理空間情報施策の推進

市が保有する統計的な情報や電子地図情報の提供サービスの推進

数	オープンデータ、地理空間情報の公開数 市が保有する統計的な情報や電子地図情報の公開数		
値目標	現状値(H30)		目標値(R6)
	7		11

【関連計画】

米子市情報化基本計画

※<u>Society5.0</u>: IoT(Internet of Things: モノのインターネット)や AI(Artificial Intelligence: 人工知能)などの最新テクノロジーを活用した便利な社会。最終的には少子高齢化・地域格差・貧富の差などの課題を解決し、一人ひとりが快適に暮らせる社会を実現することが「Society 5.0」の真の目的となる。

※<u>AI チャットボット</u>: 人間が入力するテキストや音声に対して、自動的に回答を行うことで、これまで人間が対応していた「お問い合わせ対応」「注文対応」などの作業を代行するプログラム。